

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

天塩川の基本高水は、昭和48年8月、昭和50年8月、昭和56年8月等の既往洪水について検討した結果、基準地点^{なよろおおはし}名寄大橋においてそのピーク流量を3,300m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により500m³/sを調節することとして、河道への配分流量を2,800m³/sとする。基準地点^{なよろ}誉平においてはそのピーク流量を6,400m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により700m³/sを調節することとし、河道への配分流量を5,700m³/sとする。

名寄川の基本高水は、昭和48年8月、昭和50年8月、昭和56年8月等の既往洪水について検討した結果、基準地点^{まくんべつ}真勲別においてそのピーク流量を1,800m³/sとし、このうち流域内の洪水調節施設により400m³/sを調節することとし、河道への配分流量を1,400m³/sとする。

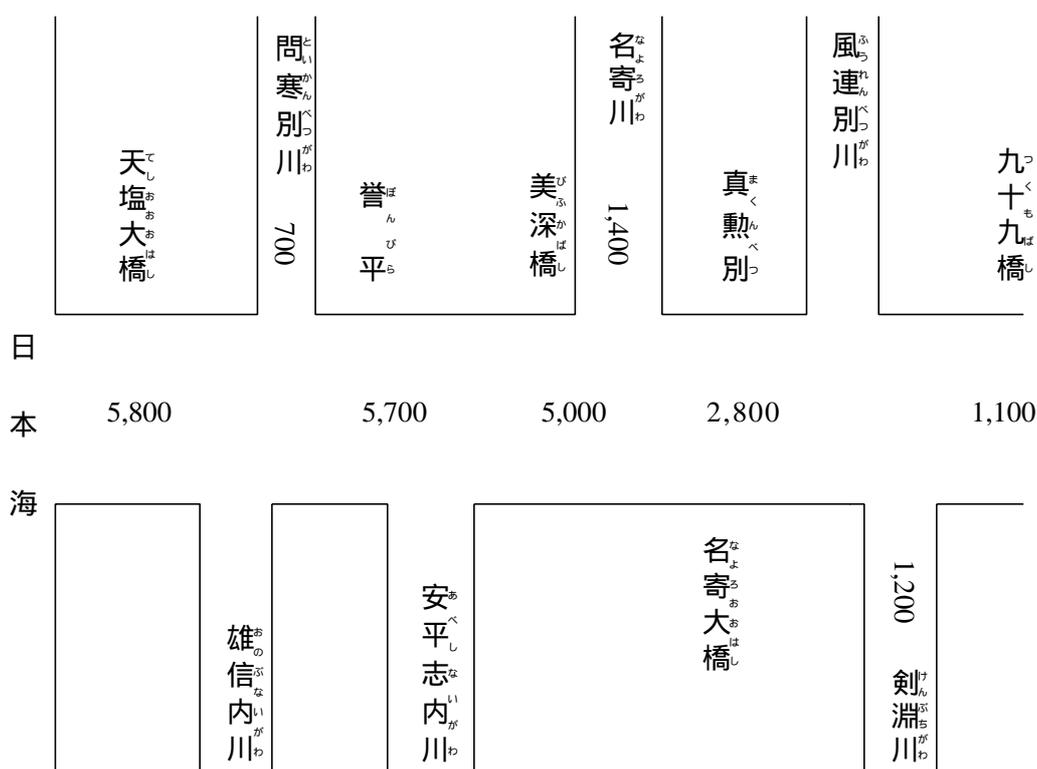
基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /s)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /s)	河道への配分流量 (m ³ /s)
天塩川	名寄大橋	3,300	500	2,800
	誉平	6,400	700	5,700
名寄川	真勲別	1,800	400	1,400

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

天塩川の計画高水流量は、剣淵川の合流前において1,100m³/sとし、^{ふうれんべつ}風連別川等からの流入量を合わせ、名寄大橋において2,800m³/sとする。名寄大橋から下流においては、名寄川等からの流入量を合わせ、^{びふかばし}美深橋において5,000m³/sとし、^{あべしな}安平志内川等からの流入量を合わせ、誉平において5,700m³/sとする。さらに、その下流では、問寒別川等からの流入量を合わせ、天塩大橋において5,800m³/sとし、河口まで同流量とする。

名寄川の計画高水流量は、真勲別において1,400m³/sとする。



単位：m³/s

天塩川計画高水流量図

3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの 距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川 幅 (m)
天塩川	九十九橋	河口から 177.1	135.42	200
	名寄大橋	" 151.2	95.62	320
	美深橋	" 128.1	74.66	350
	誉 平	" 58.9	19.27	350
	天塩大橋	" 18.6	6.93	500
名寄川	真勲別	天塩川合流点から 8.4	106.32	200

注) T.P.: 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する
事項

美深橋地点から下流の既得水利としては、農業用水約 $0.1\text{m}^3/\text{s}$ の許可水利がある。

これに対し、美深橋地点における過去33年間(昭和43～平成12年)の平均湯水流量は $30.7\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量 $52.6\text{m}^3/\text{s}$ である。

美深橋地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量については、水利の現況、動植物の保護、景観等を考慮し、概ね $20\text{m}^3/\text{s}$ とする。

なお、美深橋地点下流の水利使用の変更に伴い当該流量は増減するものである。